

所属	看護医療学部 臨床検査学科	職位	講師	氏名 (学位)	澤田 浩秀 博士 (医学)	
所属学会	日本認知症予防学会、日本神経科学学会、日本生化学会、日本臨床細胞学会、日本組織細胞化学会、日本臨床衛生検査技師会、日本臨床検査医学会					
専門領域	認知症、神経解剖学・病理学、臨床細胞学、臨床検査学					
研究テーマ	1. 動物モデルを用いたパーキンソン病発症予防の研究 2. 臨床検査技師による認知症予防に関する研究					
I 主な教育活動						
教育実践上の主な実績						
1 教育・内容の工夫 (授業評価等を含む)	・講義の都度、講義内容を視覚から理解しやすいよう図、表を盛り込み、また、重要事項を括弧抜きし、学生自らが埋めるようにする講義プリントを作成することにより、学生から理解しやすいと好評であった。 ・特に再試験対象者を中心に、積極的な補講 (補習) を行うようにしている。					
2 作成した教科書、教材、参考書	1. 国家試験対策用教材「基礎からの国試対策問題集」作成 (神戸常盤大学) 2. 臨床検査技師国家試験対策マスタードリル 2021 分担執筆 (神戸常盤大学)					
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	1. 日本認知症予防学会学術集会・認知症領域検査技師講座：「認知症の脳波の特徴」 2015年9月 2. 日本認知症予防学会学術集会・認知症領域検査技師セミナー：「認知症と臨床検査」 2016年9月 3. 日本認知症予防学会・認知症予防専門士講座大阪研修会：「認知症予防に関する臨床検査と最近の話題」 2019年9月 4. 日本臨床検査技師会・令和5年度認定認知症領域検査技師指定講習会：「脳波検査」 2024年2月 (Web)					
4 その他教育上特記すべき事項	1. 細胞検査士資格取得 1989年12月 2. 第一種衛生管理者資格認定校としての企画準備 (神戸常盤大学) 2013年11月～2014年6月 3. 認定認知症領域検査技師資格取得 2014年4月 4. 第11回日本臨床検査学教育学会学術大会・実行委員長 (神戸常盤大学) 2016年4月～9月 5. 認知症予防専門士資格取得 2019年4月 6. 認知症予防専門臨床検査技師資格取得 2024年4月					
II 主な研究活動						
種別	著書・論文等の名称	単著 共著	発行 年月	発行所、発表雑誌 (および巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	頁数
著書	1. Role of microglia in inflammatory process in Parkinson disease. Etiology and Pathophysiology of Parkinson Disease	共著	2011年 9月	INTECH Open Access Publisher	Sawada, H., Suzuki, H., Ono, K., Imamura, K., Nagatsu, T., Sawada, M.	329-348
学術論文	1. Immunotoxin-mediated conditional disruption of specific neurons in transgenic mice.	共著	1995年 2月	Proc. Natl. Acad. Sci. U S A 92(4)	Kobayashi, K., Morita, S., Sawada, H., Nagatsu, T. 他6名	1132-1136
	2. Characterization of neuron-specific huntingtin aggregates in human huntingtin knock-in mice.	共著	2007年 4月	Neurosci. Res. 57(4)	Sawada, H., Ishiguro, H., Goto, J., Kanazawa, I., Nagatsu, T. 他4名	559-573
	3. Activated microglia affect the nigro-striatal dopamine neurons differently in neonatal and aged mice treated with 1-methyl-4-phenyl-1,2,3,6-tetrahydropyridine.	共著	2007年 6月	J. Neurosci. Res. 85(8)	Sawada, H., Hishida, R., Hirata, Y., Nagatsu, T., Sawada, M. 他4名	1752-1761

種別	著書・論文等の名称	単著 共著	発行年 月	発行所、発表雑誌（および巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	頁数
学術論文	4.Exercise by shaking alleviates the decline in memory due to aging: a study in mice	共著	2022年 12月	Dement. Geriatr. Cogn. Disord. 51(5)	Izawa, S., Yamada, K., Yao, R., <u>Sawada, H.</u> , Nishii, K. 他4名	433-440
	5.Novel shaking exercises for hippocampal and medial prefrontal cortex functioning maintain spatial working memory	共著	2023年 1月	Exp. Gerontol. 171	Yao, R., Yamada, K., Kito, T., <u>Sawada, H.</u> , Chihara, T. 他4名	112024
	6.Exercise through shaking stimuli suppresses cancer growth via the Wnt pathway in Apc Min/+ mice	共著	2023年 3月	Asian Pac. J. Cancer Prev. 24	Iwata, D., Yamada, K., Chihara, T., Sawada, H., Nishii, K. 他4名	253-259
	7. FNDC5/irisin mediates the protective effects of Innovative theta-shaking exercise on mouse memory	共著	2024年 4月	Heliyon 10(8)	Yao, R., Yamada, K., Izawa, S., <u>Sawada, H.</u> , Nishii, K. 他4名	e29090
8. Effects of Aerobic Exercise and Resistance Training on Cognitive Function: Comparative Study Based on FNDC5/Irisin/BDNF Pathway	共著	2024年 8月	Dement. Geriatr. Cogn. Disord. 53(6)	Izawa, S., Nishii, K., Aizu, N., Sawada, H., Yamada, K. 他4名	329-337	

III 主な学会活動

発表(報告)名等	単独 共同	発表年 月	学会名等
1. The improvement of the intestinal environment can protect from neurodegeneration by Parkinson	共同	2018年 7月	第41回日本神経科学大会（神戸）
2. マウスを用いた動物実験の病理検査学実習への導入	共同	2023年 8月	第17回日本臨床検査学教育学会学術大会（天理）
3. 遺伝子ノックイン法により作成したハンチントン病モデルマウスにおける脳神経系の異常	単独	2023年 9月	第12回日本認知症予防学会学術大会（新潟）
4. パーキンソン病モデルマウスにおける腸内環境の変化が神経変性に及ぼす影響について	共同	2025年 3月	第35回生物試料分析科学会学術集会（四日市）

IV 社会における主な活動

活動期間	活動内容等
2013年6月～2023年3月 2016年4月～ 2017年8月～ 2020年4月～2025年3月 2022年4月～	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 研究所実験動物管理室 客員研究員 日本認知症予防学会 評議員 日本臨床検査学教育協議会 学会運営副委員長 神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制過程 非常勤講師（看護解剖生理学） 藤田医科大学保健衛生学部リハビリテーション学科 客員准教授